

西宮市民会館

文・写真 田中栄治



西宮市民会館は、阪神西宮駅市役所口改札を出てすぐ北側、西宮市役所本庁舎の南にある。地下1階・地上6階建て、1,242人収容のアミティホールと大中小合わせて12の会議室、アミティギャラリー、公益財団法人西宮市文化振興財団事務所からなる複合施設である。設計は、図面の記載では京都大学教授・工学博士・一級建築士・増田友也による設計指導のもと、財団法人建築研究協会一級建築士事務所となっているが、雑誌発表時の担当者名から実質的には京都大学工学部建築学科増田研究室が担当したと考えられる。(120111 訂正) 竣工は1967(昭和42)年3月である。

建築家 増田友也

増田友也は、1914(大正3)年兵庫県三原郡八木村(現在の兵庫県南あわじ市)に生まれた。1939(昭和14)年京都大学工学部建築学科を卒業後、満州炭鉱工事課に勤務した。戦後1950(昭和25)年京都大学講師に就任し、1962(昭和37)年に同大学教授になる。1981(昭和56)年没。大学での研究対象は、建築空間論から建築的存在論に展開し、さらには「建築以前」へと広がっている。研究活動と同時に、1960~70年代を中心に積極的に設計活動を行い、造形性の高い作風の建築を数多く

発表した。おもな設計建物は、倉敷市庁舎(1960)、鳴門市民会館(1961)、京都市蹴上浄水場本館(1962)、衣笠山の家(1962)、鳴門市庁舎(1963)、東山会館(1963)、智積院会館(1966)、豊岡市民会館(1971)、京都大学総合体育館(1972)、鳴門市勤労青少年ホーム(1975)、鳴門市老人福祉センター(1977)、鳴門市文化会館(1982)など。旧建部歯科医院は国登録有形文化財、鳴門市民会館・鳴門市庁舎はDOCOMOMO選定建物になっている。

シビックセンター計画

西宮市民会館の設計に先立ち、京都大学増田研究室と西宮市において街区全体のマスタープランが作成されている。この計画は、市の行政・文化・社会活動の中核となるべきシビックセンターの提案であり、かつ京阪神都市圏の機能的核としての将来性を考慮したものであった。また、ここにまったく新しい特色ある都市景観を造形して、西宮市の風土的中心を与えることを意図したものであった。

マスタープランの内容は以下の通りである。

- ・敷地中央部は共通部分としての広場の役割を持った地上2階のプラットフォームとする。
- ・プラットフォームの周囲に市行政管理・一般業務管理・社会福祉諸施設・文化施設等の建築群を配置する。
- ・敷地はできるだけ集約して建築し、緑地・広場や共通に使用できるスペースを確保する。
- ・事務棟等はなるべく高層化し、可能なものは超高層の計画を立てることが望ましい。
- ・敷地内に既存の市庁舎や市立図書館等の少数の建物は恒久的に保存利用するものとしてマスタープランのなかに取り込む。
- ・敷地に多い楠木等の大樹を保存し、これを中心として庭園風緑地とする。
- ・地上や建物の1階等は原則として自動車等機械装置による交通および駐車に供する。

- ・主アプローチは南北より敷地中心部に行なう。・周囲の道路は主にサービスアプローチ用とする。
- ・人の交通は原則として自動車交通とは違った2階のレベルで行う。・建物・陸橋・広場・緑地を継ぎ一貫したネットワークを組む。
- ・マスタープランの計画は長期にわたって実施されるものであり、工期計画が重視される。
- ・時期に応じて計画の選択肢を作成できるように、計画の原理を明確にしておかなければならない。

西宮市民会館は、このシビックセンターの一部として計画され、再開発の「核」として将来市庁舎との接続ともなる広場のプラットフォームの一部とともに1967（昭和42）年3月に完成したものである。



西宮市民会館

京都大学増田研究室と西宮市当局との相互の検討の上で明らかにされたマスタープラン計画案を主要条件として西宮市民会館の設計が行われた。西宮市民会館の建物は、音楽・映画・演劇等の多目的な催物が可能な大ホール（アミティホール）と、結婚式場・集会室を中心とする2つのブロックに分かれ、相互の融合的な利用と平面計画上の考慮が行われている。さらに、大ホールは客席・ホワイエと舞台・楽屋の2つのブロックに分かれているので、建物の外観は大きく3つのブロックに分けて設計されている。主要構造は鉄筋コンクリート構造一部鉄骨構造であり、集会室や宴会室の大小、

さらに大ホールのホワイエ等をひとつのシステムの高さ関係に納めるために基準階高を3,000mmとし、梁やプレキャストコンクリートやコンクリート目地等の割り付けを床から150-1,000-100-1,000-150-600mm（計3,000mm）のモジュール系列を基本として、そのバリエーションにより建物全体に特有のリズムを与えている。建物の外壁仕上げは①コンクリート打放し仕上げ、②コンクリートハツリ仕上げ、③コンクリート打ちのまま、④プレキャストコンクリート、⑤モルタルガン吹き付けの各種表面処理の上に吹き付け仕上げの組み合わせで構成されている。

建物東側で緑地・広場に面した大ホール舞台・楽屋のブロックは、1階の楽屋まわり以外が無窓で高さのある直方体の建物になるため、外壁のコンクリート目地のリズムと各種表面処理の組み合わせによる構成、それに加えてピアノ置場の曲面や排煙口・楽屋まわりの目隠しコンクリートパネルの突出によるアクセントにより、外観の圧迫感や単調さをやわらげるように配慮されている。

建物中央の大ホール客席・ホワイエのブロックは、舞台・楽屋ブロックと同様に外壁のコンクリート目地のリズムと各種表面処理の組み合わせによる構成、および照明室の曲面とその上部のバルコニー状の突出によるアクセントを持った大きな曲面の外壁が特徴的である。これは大ホールの大きな空間を作り出す鉄骨トラス屋根を支える柱断面が下にいくほど大きくなるのを外観に表したものであるが、それ以上に設計者の言葉にある「大ホールの外壁は、特にその前面にあるプラットフォーム（将来これは増築されて市庁舎と市民ホール間の広場になるべきもの）に対する壁面としてデザインされている。これはシビックセンターにおいて野外での集りや憩いが望まれるからである」（『建築文化』1967年5月号）という記述から判るように、西宮市民会館の主要条件となっている

シビックセンターのマスタープランのなかでのこの壁面の意味を考慮していたことが重要である。

つまり、この壁面はシビックセンターの中心となる広場（プラットフォーム）の背景としての位置付けが行われていた。曲面の壁は同じ増田友也設計の「智積院会館」（1966）にもみられ、また広場に対して曲面の壁を背景とする構成はル・コルビュジェの「ロンシャンの礼拝堂」（1955）や「チャンドィガールの高等裁判所」（1955）などにもみられる。また、この曲面の外壁足元の有機的な形態、浮いたように見える屋根形態にもル・コルビュジェの影響をみる事が可能である。さらに、増田友也には初期から「壁」に関する論考が多くみられることから、西宮市民会館におけるこの曲面の壁は設計者にとって重要な意味を持っていたと考えられる。



建物西側の結婚式場・集会室のブロックは、建設当初は増田研究室の設計によるコンクリート梁と外壁プレキャストコンクリートパネルのリズムと各種表面処理の組み合わせによる構成、およびル・コルビュジェの影響が見られるブリーズソレイユとルーバーを持った彫りの深い造形性の高い外観であったが、現在は昭和58年の増築・外壁改修によりアルミパネルとガラスのカーテンウォールとなっており、当初の面影をみることはできなくなっている。

建物全体は、これら3つのブロックに加えて、大ホールホワイエの南北に配置された円筒状の2つ階段および西側の屋外階段が建物外観のアクセントとなっている。設計者は「建築の造形は、シビックセンターに豊かな表現を与え、市民の都心に対する象徴的なイメージを与えることのできるように意図された」（『建築文化』1967年5月号）と記している。



また、市民会館と市庁舎を歩行者デッキでつなぐ考え方は、DOCOMOMO選定建物である増田友也設計の鳴門市民会館（1961）・鳴門市庁舎（1963）にすでにみられ、それをここではシビックセンターの中心的広場へと発展させたものである。

現状

現在の建物外観としては、前述のように建物西側の結婚式場・集会室ブロックに関しては増築・外壁改修によりアルミパネルとガラスのカーテンウォールに覆われて竣工当時の外観は見られないが、大ホール客席・ホワイエブロックと舞台・楽屋ブロックおよび南北の円筒形階段・西側屋外階段に関しては、部分的な改修は行われているものの竣工当時の外観がよく残っており、設計者増田友也の意図がよく表れている。

一方、西宮市民会館設計の主要条件となっていたシビックセンターのマスタープランは、その後実現されることはなかった。自動車は地上1階レベ

ル、歩行者は2階デッキレベルという歩車分離も実現に至らなかった。特に市庁舎との接続ともなる予定だった広場のプラットフォームは一部分のみが市民会館とともに完成しただけで、マスタープランで計画されていたうちの半分以上は建設されることなく現市庁舎の建設が行われた。この結果、西宮市民会館の建物の造形はその前提条件を失い、設計者の意図が薄れてしまっているのが現状である。2012.01.05

掲載雑誌

『新建築』1966年1月号
『建築文化』1967年5月号
『近代建築』1967年6月号
『SD』1967年10月号

参考図書

『現代日本建築家全集 14』1972年 三一書房
『増田友也著作集』1999年 ナカニシヤ出版

田中栄治

1967 大阪府大阪市生まれ
1991 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
1991～99 株式会社坂倉建築研究所大阪事務所
2000 田中栄治建築設計事務所開設
2004～ 神戸山手大学現代社会学部環境文化学科准教授を兼務
2008 一級建築士事務所田中+青山開設